

NEWS RELEASE (2024年 10月 8日) 告知・取材依頼

「鹿児島県の近現代」教育研究センター 令和6年度秋のシンポジウム

「〈危機〉の時代における海外へのまなざし—明治と現代、そして鹿児島—」の取材・告知依頼

報道機関 各位

平素より本学の報道に関して大変お世話になっております。

「鹿児島県の近現代」教育研究センターでは、令和6年11月4日（月）に、令和6年度秋のシンポジウム「〈危機〉の時代における海外へのまなざし—明治と現代、そして鹿児島—」を開催します。

本シンポジウムは、〈危機〉の時代を克服した先人たちの行動について改めて認識するため、近代の経済を専門とする歴史家であるミシガン大学名誉教授のロイ・ハナシロ先生と、鹿児島の代表的企業家の一人である島津興業取締役社長の島津忠裕氏を招き、日本が行った西洋の制度の導入、外国人材の活用法について論じていただきます。トークセッションでは、上記講演者に加えて、株式会社清友・株式会社ミエルカ代表取締役の宮之原明子氏と始良市クリエイティブアドバイザーのサンディー・ユハス氏をゲストスピーカーに迎え、近代と現代を比較対照させながら、今後の日本および鹿児島が取るべき外国との関係のあり方、経済の活性化の方策などについて広く議論を行うこととします。

つきましては、下記の通り詳細をお知らせいたしますので、広く一般の皆様方への告知をお願いいたします。

また、当日の取材につきましてもどうぞよろしくお願いいたします。

記

【日時】2024（令和6）年11月4日（月）13：30～17：00（開場 13：00）

【会場】鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール（定員 270 名）

【同時配信】YouTube ライブ

【対象者】学生、一般市民

【内容】

13：00 開場

13：30 開演

13：30～13：40 開会挨拶

13：40～13：50 企画趣旨説明（「鹿児島県の近現代」教育研究センター長 丹羽謙治）

13：50～14：40 基調講演

「Looking Abroad in Times of Crisis: Early Meiji and the Present

明治政府の実験的試み—お雇い外国人と日本造幣局」

（ミシガン大学名誉教授 ロイ・ハナシロ氏）

（通訳：東海大学文理融合学部教授 西村知氏）

14：40～14：50（休憩）

14：50～15：40 基調講演②「薩摩藩の近代化とその背景」

（島津興業代表取締役社長 島津忠裕氏）

15：40～15：50（休憩）

15：50～16：35 トークセッション

◎登壇者：ハナシロ氏、島津氏、宮之原明子氏（株式会社清友・株式会社ミ

エルカ代表取締役)、サンディー・ユハス氏(始良市クリエイティブアド
バイザー)

16:35~16:50 会場からの質問

16:50~17:00 閉会挨拶

17:00 閉会

シンポジウム「〈危機〉の時代における海外へのまなざし—明治と現代、そして鹿児島—」要旨

日本経済は低迷期に入って久しい。今世紀に入り、自然災害の多発、少子高齢化の進展に伴う労働力不足、為替相場の不安定化と物価高騰、都市への人口集中と地方の疲弊などの現象によって先行きが見通せず人々は不安をかき立てられています。一方でかつての発展途上国と日本の格差は縮まり、逆転する面もしばしば見られるようになっていきます。今の日本は停滞、低迷から抜け出す方法を探しあぐねおり、まさに〈危機〉の時代を迎えているといえます。しかし、漠然と不安を感じつつも〈危機〉という認識に至っている日本人は少数です。

かつて日本は近代国家の黎明期に、欧米列強の植民地化の危機を克服するため、欧米の制度やお雇い外国人を積極的に導入し、西洋近代化の道を切り開き、産業の育成、貿易の拡大、富国を目指し、試行錯誤を繰り返しました。明治初期のリーダー達は、海外の見方を心得ていたと言えます。本シンポジウムは、〈危機〉の時代を克服した先人たちの行動について改めて認識するため、近代の経済を専門とする歴史家を招き、日本が行った西洋の制度の導入、外国人材の活用法について論じていただきます。その後で、現代の鹿児島の企業家をキーノートスピーカーとして迎え、島津家当主の立場から薩摩が近代化に果たした役割や背景などについて語っていただきます。これらを踏まえ、トークセッションでは、上記講演者に加えて、二人のゲストスピーカーを迎え、近代と現代を比較対照させながら、これからの日本、そしてこれからの鹿児島の経済・経営、外国との関係の結び方について広く議論を行うこととします。

登壇者

Roy Hanashiro (ロイ・ハナシロ)

ミシガン大学名誉教授。1976年ハワイ大学マノア校卒業。1978年同大学修士課程修了。1988年博士号取得後、1989年からミシガン大学フリント校に35年間勤務し、15年間にわたり同大学歴史学部長、福岡大学、小樽商科大学、ハワイ大学で客員講師を務め、長く雑誌「Studies on Asia」の編集長を担当。専門は近代日本およびアジア経済史。アメリカだけでなく、イギリス、日本の学術機関で研究を行う。明治時代の「お雇い外国人」などを研究テーマとする。著書に“Thomas William Kinder and The Japanese Imperial Mint 1868-1875” Brill Academic Pub, 1999 など。

島津忠裕 (しまづ ただひろ)

島津興業代表取締役社長。島津家第33代。1996年慶応義塾大学経済学部卒業後、株式会社日本興業銀行(現みずほ銀行)入行。2004年島津興業入社。2008年取締役、2015年より現職。主な業務は島津興業が運営する仙巖園・尚古集成館のブランディング。所有資産「旧集成館」の世界遺産登録に向けた活動を行い、2015年世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として登録実現。島津家歴代当主を祀る鶴嶺神社の宮司も務める。裏千家淡交会鹿児島支部支部長。

宮之原明子（みやのはら あきこ）

株式会社清友および株式会社ミエルカ代表取締役。鹿児島純心女子短期大学卒業後、家業である人材サポート会社 株式会社清友に入社。イベント・モデル・デモンストレーション事業など新規事業に積極的に取り組み、接客・販売指導など1.5万人を超えるスタッフへの指導を行う。魅力ある人材を育成する「魅力学」講師として、各種の講座やコミュニケーションコンサルティングを実施。関わるすべての方のお役に立つという「for you」精神のもと国内外の多方面で活躍。現在は社会福祉事業にも精力的に取り組む。著書に『好かれるリーダーに変わる50の技術 人手不足を解消するチームのつくり方』（セルバ出版、2023年）がある。

Sandy Juhasz（サンディー・ユハス）

始良市クリエイティブアドバイザー。ハンガリーの首都ブダペスト出身。来日20年を迎える、日本とハンガリーの架け橋的存在。鹿児島県在住で、県内唯一のハンガリー人。国際ジャーナリスト。ハンガリー最古のメディア組織ハンガリー記者クラブ「MUOSZ」の正会員。社会貢献への関心が高く、ハンガリーに日本の古本を送ることで国際交流を促進する「本ノコテ」プロジェクトを主導し、ブダペスト最大の日本書籍大学図書館をつくる。世界における日本の存在をアピールすることを願い、日々活動の幅を広げている。

以上

※シンポジウムフライヤーを別紙でつけております。

※取材を希望される際には、事前に下記担当者までご連絡ください。

※センターHP <https://kadai-kingendai.jp/>

【申込み先】

※当日会場での参加をご希望の方は、申し込み専用フォームによる事前申請が必要となります。

<https://forms.office.com/r/c5AayDQWpt?origin=lprLink> （別紙でQRコードをつけております）

※オンライン配信をご覧になる際には事前の申し込みは不要です。（別紙でQRコードをつけております）

【締切日】令和6年10月27日（日）

【参考URL】<https://kadai-kingendai.jp/information/>

【問い合わせ先】

鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター事務室担当：江（ジャン）・佐藤

TEL：099-285-7532 E-mail：kingendaijim@leh.kagoshima-u.ac.jp

※ニュースリリースは鹿児島大学ホームページからもご確認できます。（解禁日以降に随時掲載）

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/pr-info.html>

【トップページ＞大学紹介＞広報＞ニュースリリース・報道・広告】

これからの日本、
そしてこれからの鹿児島県の経済・経営、
外国との関係の結び方について考える。

〈危機〉の時代における 海外へのまなざし

— 明治と現代、そして鹿児島 —

2024年

11月4日

月・祝

13:30~17:00 (開場 13:00)

会場

鹿児島大学

キミ&ケサメモリアルホール
(稲盛会館)

参加費無料

参加者受付フォーム

会場での参加を希望される方は10月27日までに事前申し込みが必要となります。



YouTubeチャンネル

オンラインでの参加を希望される方は事前申し込みは不要です。



お問い合わせ先

「鹿児島の近現代」教育研究センター

TEL: 099-285-7532 E-mail: kingendaijim@leh.kagoshima-u.ac.jp

主催/鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター

後援/MBC南日本放送 KTS鹿児島テレビ KKB鹿児島放送 KYT鹿児島読売テレビ

鹿児島県教育委員会 鹿児島市教育委員会 南日本新聞社 鹿児島観光コンベンション協会

鹿児島県観光連盟 鹿児島市商工会議所 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

詳細はこちら



国立大学法人
鹿児島大学
KAGOSHIMA UNIVERSITY

〈危機〉の 時代における 海外へのまなざし

— 明治と現代、そして鹿児島 —

企画概要

本シンポジウムでは、「危機」の時代を克服した先人たちの行動について改めて認識するため、日本が行った西洋の制度の導入、外国人材の活用法を参考にしながら、多彩なゲストスピーカーを迎え、近代と現代を比較対照させながら、今後の日本および鹿児島が取るべき外国との関係のあり方、経済の活性化の方策などについて広く議論を行います。

プログラム

- 13:30 開会あいさつ
13:40 企画趣旨説明
13:50 基調講演①
「The Meiji Experiment: Foreign Experts and the Japanese Imperial Mint
明治政府の実験的試みーお雇い外国人と日本造幣局」
ロイ・ハナシロ(ミシガン大学名誉教授)
○通訳:西村知(東海大学文理融合学部教授)
- 14:40 休憩
14:50 基調講演②「薩摩藩の近代化とその背景」
島津忠裕(島津興業代表取締役社長)
- 15:40 休憩
15:50 トークセッション「近代の鹿児島と現代の鹿児島における世界の見方について」
ロイ・ハナシロ(ミシガン大学名誉教授)
島津忠裕(島津興業代表取締役社長)
宮之原明子(株式会社清友および株式会社ミエルカ代表取締役)
サンディー・ユハス(始良市クリエイティブアドバイザー)
○司会:松田忠大(「鹿児島の近現代」教育研究センター副センター長)
○通訳:西村知(東海大学文理融合学部教授)
- 16:35 会場からの質問
16:50 閉会のあいさつ
17:00 閉会

登壇者紹介



Roy Hanashiro(ロイ・ハナシロ)

ミシガン大学名誉教授。1976年ハワイ大学マノア校卒業。1978年同大学修士課程修了。1988年博士号取得後、1989年からミシガン大学フリント校に35年間勤務し、15年間にわたり同大学歴史学部長、福岡大学、小樽商科大学、ハワイ大学で客員講師を務め、長く雑誌「Studies on Asia」の編集長を担当。専門は近代日本およびアジア経済史。アメリカだけでなく、イギリス、日本の学術機関で研究を行う。明治時代の「お雇い外国人」などを研究テーマとする。著書に「Thomas William Kinder and The Japanese Imperial Mint, 1868-1875」 Brill Academic Pub, 1999など。



宮之原 明子(みやの はら あきこ)

株式会社清友および株式会社ミエルカ代表取締役。鹿児島純心女子短期大学卒業後、家業である人材サポート会社 株式会社清友に入社。イベント・モデル・デモンストレーション事業など新規事業に積極的に取り組み、接客・販売指導など1.5万人を超えるスタッフへの指導を行う。魅力ある人材を育成する「魅力学」講師として、各種の講座やコミュニケーションコンサルティングを実施。関わるすべてのお役に立つという「for you」精神のもと国内外の多方面で活躍。現在は社会福祉事業にも精力的に取り組む。著書に『好かれるリーダーに変わる50の技術 人手不足を解消するチームのつくり方』（セルバ出版、2023年）がある。



島津 忠裕(しまづ ただひろ)

島津興業代表取締役社長。島津家第33代。1996年慶応義塾大学経済学部卒業後、株式会社日本興業銀行(現みずほ銀行)入行。2004年島津興業入社。2008年取締役、2015年より現職。主な業務は島津興業が運営する仙巖園・尚古集成館のブランディング。所有資産「旧集成館」の世界遺産登録に向けた活動を行い、2015年世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として登録実現。島津家歴代当主を祀る鶴嶺神社の宮司も務める。裏千家淡交会鹿児島支部支部長。



Sandy Juhasz(サンディー・ユハス)

始良市クリエイティブアドバイザー。ハンガリーの首都ブダペスト出身。来日20年を迎える。日本とハンガリーの架け橋的存在。鹿児島県在住で、県内唯一のハンガリー人。国際ジャーナリスト。ハンガリー最古のメディア組織ハンガリー記者クラブ「MUOSZ」の正会員。社会貢献への関心が高く、ハンガリーに日本の古本を送ることで国際交流を促進する「本ノコテ」プロジェクトを主導し、ブダペスト最大の日本書籍大学図書館をつくる。世界における日本の存在をアピールすることを願い、日々活動の幅を広げている。

会場

鹿児島大学
キミ&ケサメモリアルホール
(稲盛会館)

鹿児島市郡元1丁目21番30号

大学構内に駐車場はございません。
公共交通機関もしくはパーキングを
ご利用ください。

